

金沢 健一

線について—自作の4シリーズから

Kenichi Kanazawa

On Lines—From My Four Series

2026年5月1日(金)–24日(日)

月曜休館(ただし5月4日は開館)、5月7日(木)は休館

9:00–17:00 観覧無料

主催: 金沢健一 川越市立美術館

【関連イベント】

①～③は美術館 HP 申し込みフォームから
お申し込みください。4月1日(水) 9:00 受付開始。



① ワークショップ「振動という出来事—クラドニ図形を作る」 (材料費 1,000 円)

講師: 金沢健一 (出品作家)

日時: 5月5日(火・祝) 13:00–15:00 会場: 創作室

対象・定員: 小学校4年生～大人・12名(先着)

内容: 振動の現象である「クラドニ図形」を鉄板を使って作ります。クラドニ図形は面状の物体を振動させることによって現れる不思議な図形で振動の波の境目に生じる図形です。正方形や円の鉄板上に振動を与えどのようなクラドニ図形が現れるか試みます。

② ワークショップ「からだが生みだす線の動き」(材料費 1,000 円)

講師: 里見まり子 (即興舞踊家・宮城教育大学名誉教授) +
金沢健一 (出品作家)

日時: 5月9日(土) 10:00–15:00 会場: アートホール

対象・定員: 小学校4年生～大人・15名(先着)

内容: からだの骨や筋肉に意識を向けて、線の動きを導き出してみましょう。そして、その動きをドローイングや鉄線を曲げることによって造形作品につなげてみます。身体と造形のやり取りから見てくる線の動きを探索するワークショップです。

③ ワークショップ「音のかけらを作る」(材料費 5,000 円)

講師: 金沢健一 (出品作家)

日時: 5月16日(土) 10:00–15:30 会場: 創作室

対象・定員: 小学校4年生～大人・12名(先着)

内容: 《音のかけら》は不定形に溶断した鉄板から音を発見する作品です。直径 35cm の鉄板を溶断し、《音のかけら》を制作します。その音を体験し、みんなで色々な演奏を試みます。制作した作品一式は持ち帰れます。

④ パフォーマンス「延長線上のマリオネット—歩く人」(無料)

出演: 金沢健一 (出品作家)

日時: 5月23日(土) 14:00–15:00 会場: アートホール

内容: 自動化されたマリオネットが踏み鳴らす板の音にいろいろな素材を介在させながら展開するマリオネットの動きと音のパフォーマンス。

⑤ アーティストトーク (無料)

出演: 金沢健一 (出品作家)

日時: 5月2日(土)・24日(日) 14:00–15:00 会場: 企画展示室

内容: 出品作品についてのトーク、デモンストレーションをします。

【交通案内】

●東武東上線・JR川越線(埼京線)「川越駅」東口7番のりば、西武新宿線「本川越駅」5番のりばから

東武バス「川越運動公園/埼玉医大/上尾駅西口」行きで「川越市役所前」下車徒歩5分

●同「川越駅」東口1・2・4・5・6番のりば、「本川越駅」5番のりばから東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分

●同「川越駅」東口3番のりばから小江戸名所めぐりバスで「博物館前」下車

●同「川越駅」西口2番のりば、「本川越駅」から小江戸巡回バスで「博物館・美術館前」下車

川越市立美術館

〒350-0053 埼玉県川越市郭町 2-30-1

TEL:049-228-8080 FAX:049-228-7870

<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/artmuseum/>

今回の展覧会は自作の4シリーズを取り上げ、線の要素について注目してみたい。

《音のかけら》では点としての音のつながりと線の音楽。

《手すさみのライン》では素材である鉄と点の運動としての線。

《振動態》では振動が作り上げる境界としての線—振動の物理現象であるクラドニ図形。

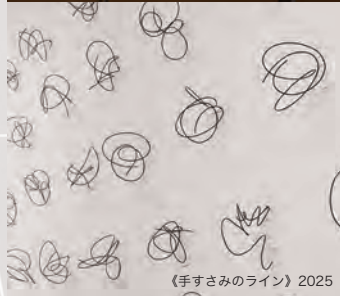
《延長線上のマリオネット》では糸で結ばれる関係としての線。それぞれのシリーズにおいて「線」の在り方や現れ方を考察することで、単なる形状や輪郭としての線だけでなく、動きや時間の痕跡、物質との関わりや空間との対話、さらには人と人のあいだの見えない関係としての線にも意識が向く。「線」という普遍的な表現要素が、自身の制作を通じて多層的に展開し、新たな意味や感覚を立ち上げる契機としたい。(金沢健一)



《延長線上のマリオネット—関係》2021



《音のかけら》2000



《手すさみのライン》2025



《振動態—円》2000

photo: Bokuyo Tarao

金沢健一 Kenichi Kanazawa

彫刻家。工業製品としての金属、鉄、ステンレス、アルミニウムを素材に、幾何学的な形態による構成的な作品、またそれと並行して、不定形に溶断した鉄板から音を発見する《音のかけら》、振動の物理現象であるクラドニ図形を利用した《振動態》など視覚、聴覚、触覚を結びつける作品も制作している。多くの美術館で展覧会、ワークショップを展開し、自らもパフォーマンスを行い、音楽家や舞踊家とのコラボレーションも多い。

1956年 東京生まれ 1979年 東京藝術大学美術学部工芸科鍛金専攻卒業

1981年 東京藝術大学大学院美術研究科修了 現在、日本大学芸術学部非常勤講師

里見まり子 Mariko Satomi

即興舞踊家・宮城教育大学名誉教授。ドイツで身体表現の理論と実践を学ぶ。1986–2016年宮城教育大学に勤務。人が感覚のアンテナを伸ばしながら自身と向き合い、他者、もの、自然とつながっていく表現教育の実践を探索している。

